

無電源 重量式雨雪量計 CGR-T-200B

特徴

この雨雪量計は、Vibrating wire(振動ワイヤー)センサーを使った、重量式の降水センサーです。以下のような特徴があります。

- ・冬季間 ヒータ無しでの雪量計測(省電力)
- ・振動ワイヤーセンサーを使用しているため、温度影響が小さい
- ・重量は3個のセンサーで測定されているので、1つ故障時にも測定が継続可能

あらかじめ、内部のバケツの中に不凍液を満たしておきます。降雪は不凍液に溶けて、不凍液が濃度は薄まっています。最大測定量は、想定温度とバケツ容量に依存しますので、それ以上の降雪がある場合には、途中で内部の不凍液を交換する必要があります。



仕様

容量	600mm (0°C) B3 タイプ 1000mm (0°C) BM3 タイプ 1500mm BMD3 タイプ
計測方法	重量計測方式 Vibrating wire * 3台
口径	160mmφ (200cm ²)
感度	0.05mm(600mm type) 0.075mm(1000mm type) 0.1mm(1500mm type)
変換器	Vibrating wire 変換器 電源:DC12V 出力:周波数 700-4000Hz (個々のセンサーに係数表有り)
測定精度	0.1% FS (0.6mm / 600mm) (1mm/1000mm) (1.5mm/1500mm)

600mm→
標準バケツ



←1000mm
タイプバケツ

使用環境	-40°C~+60°C
温度依存性	0.001% FS/°C
材質	外筒:アルミニウム 台座鉄
寸法	高さ 760mm×外径 390mmφ (600mm) 高さ 800mm×外径 390mmφ (1000mm) 高さ 1000mm×外径 390mmφ (1500mm)
重量	約 18kg(600/1000mm) 約 20kg(1500mm)
オプション	風除け 受水口(インレット)ヒーター

概要

この防風柵(DFIR: Double Fence Intercomparison Reference)は、WMO(世界気象機関)の比較観測で用いられたものと同等サイズ、同等間隔率になっており、WMO では、固形降水(雪、みぞれ、あられなど)の測定準器として推奨されています。冬期間の降雪は、風の影響により雨雪量計の補正率が悪いのが問題ですが、この防風柵を用いることにより、影響をある程度小さくすることができます

センサーの例：雨量計(CTKF-1/CTKF-1-UD)
重量式雨雪量計(CBR-T-200B)
ディストロメーター(CTC-LPM)

降雪測定用防風柵 C-DFIR



防風柵

仕様

型式	C-DFIR		
大きさ	内側	直径 4m の円に接する 8 角形 全体の高さ 3m / 柵の高さ 1.8m	
	外側	直径 12m の円に接する 8 角形(16 角形も可能) 全体の高さ 3.5m / 柵の高さ 1.8m	
	柵部	約 5cm 幅の木材を 50% 間隔率で配置	
設置条件	最低半径 15m 程度の平らな地面が必要。 周辺は風の乱れの少ない、平地が望ましい。(斜面などには、適しません) バックフォーなどの重機が入ること		
中心部	雨量計設置用の台座はオプション。通常単管パイプなどで組みます		
センサー	雨量計含まず	材料	防錆処理済木材
耐用年数	約 10 年(毎年保守した場合)	施工日数	約 4 日
価格など	設置場所により、大きく異なります。お問い合わせ下さい		

